

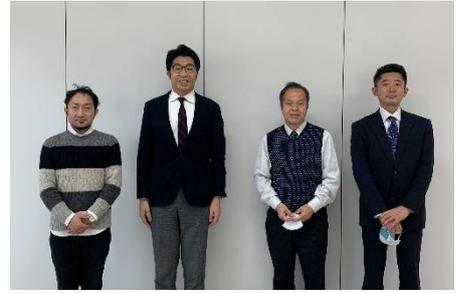
第31回 市長と話そう会

日時：令和3年1月27日（水）14：00～15：00

場所：武雄市役所 4階会議室

参加者：会員3名

（佐賀県が非常警戒措置中のため、少人数での開催となりました。）



プペル武雄として、「故郷への恩返し」をテーマに、絵本「えんとつ町のプペル」をきっかけにこれまで活動をされてきました。「市長と話そう会」を行い、現状と今後の活動について、貴重な意見交換となりました。以下に内容を抜粋して掲載しております。

（参加者）

「えんとつ町のプペル光る絵本展」をきっかけに感じた、人とのつながりの大切さを、多くの方々に共有したいと思い、「故郷への恩返し」をテーマに、武雄市内外で「えんとつ町のプペル」の語り聞かせ会や関連する各種イベントを行い、市内の全小学校に寄贈させてもらった。武雄市にもイベント協力等いただき大変感謝している。

（市長）

プペルの絵本の中にある「ゴミ人間」とは、人によっていろんな感じ方がある。ゴミ人間ではなく、そこに大切な価値があることの気づきがある。感じ方も自由でいいんだという気づきもあった。

皆さんの実行力は、すごいと思う。評論家はたくさんいるが、実行できることにとても価値がある。まちづくりは行政だけの仕事ではない。自分達でやろうという熱意がすごい。

プペルがきっかけとなって、みんなが「これをやりたい」「できるんだ」というプラットフォームとなる。新幹線開業を機に、そういう土壌を作っていきたい。

まちの魅力はそこにいる人だと思っている。ぜひ、次の展開をお聞きしたい。

（参加者）

プペル展を次も飛龍窯でやりたい。これを通して武雄に来てみようというきっかけとしてほしい。それが観光などいろんなところに波及すればいいと思う。語り聞かせも引き続きやりたい。

（市長）

プペルの映画も今度やりますよね？ドライブインシアターなどやって星空の下でできれば。

（参加者）

山内の乳待坊などでもできればと思う。

（市長）

会としての集まりはあるのか？去年の飛龍窯での絵本展以降の取組みは？

（参加者）

今はあまり発信できていない。新幹線開業時に駅舎の中で原画展をしてみたい。新幹線で武雄温泉駅に降りた方に見てもらいたい。

(市長)

新幹線から武雄で降りてもらふ工夫が必要なため、我々としても協力してもらえるとありがたい。
絵本は子供達だけのものではない。大人にも絵本を読んでほしい。
日本ではどれくらいの人が、プペルの絵本を知っているか？高校生は読んでいるか？

(参加者)

70万部突破している。語り聞かせ会には高校生はなかなか来ていない。

(市長)

武雄市では、高校生のまちづくり事業を現在やっている。高校生がまちに出ると元気になる。高校生や市民の目に触れるよう、市役所ホールもぜひ活用してもらいたい。

(参加者)

武雄のあかり展に組みこんでやればとも考えている。スポットを増やせば観光のきっかけとなるのではないか。

(市長)

プペル武雄というプラットフォームができたので、そこからさらに広がってほしい。プペル武雄のような団体と地元企業とつなぐのはもう一つの市役所の役割。もっと市民が気軽に参加できるように行政がうまくサポートできることは何があるか？

(参加者)

情報発信が足りない気がする。SNSを使っていない年代に向けての情報が伝わりづらい。
SNSに頼り過ぎずに印刷物での告知も必要である。なくしてはいけない。
関心がない人にも伝わる工夫も必要。ラッピング電車や車に貼るなど工夫ができるのではないか。

(参加者)

コロナが落ち着いたら、去年絵本を寄贈した市内の小中学校で、読み聞かせの全校ツアーをやりたい。高校生も対象にして、大人の読みきかせがあってもよいのではないかと考えている。
佐賀弁バージョンもつくるのも面白い。子供達に方言も知ってもらえる。家庭での会話のきっかけにもできるのでは。

(市長)

高齢者が読まれて、どういう風な感想を持たれるのだろうかと関心がある。英語の授業で使うなどしても面白いと思う。

市民主体のまちづくりの際、市が環境づくりをこれまでできていたのか考えさせられた。また、このコロナ禍だからこそできることがあるのでは、普段以上の喜びがあるのではないかと。

皆さんの今後の活躍を期待しています。